

コリント人への手紙 第一 12 章 1~11 節 なぜ霊的な賜物が与えられるのか

先週から、コリント人への手紙第一の 12 章から 14 章を読み進めています。この 3 つの章は霊的賜物を扱っています。神は、ご自分の子供たちに霊的な賜物を与えて教会を祝福します。今日はこのことについて見ていきたいと思えます。12 章から始めます。なぜ霊的な賜物が与えられるのか、このことを見ていくために、コリント人への手紙第一 12 章 1 節から 11 節までを読みます。手紙において、パウロは様々な問題に関する議論を展開し、それぞれの議論が互いに前提となるように成り立たせていきます。ですから、今日見ていく「なぜ霊的な賜物が与えられるのか」についての議論も、今後の賜物に関する別の議論の前提となります。このことを覚えておいてください。

では 1 節から 3 節を読んでみましょう。¹ さて、兄弟たち。御霊の賜物については、私はあなたがたに知らずにいてほしくありません。² ご存じのとおり、あなたがたが異教徒であったときには、誘われるまま、ものを言えない偶像のところに引かれて行きました。³ ですから、あなたがたに次のことを教えておきます。神の御霊によって語る者はだれも「イエスは、のろわれよ」と言うことはなく、また、聖霊によるのでなければ、だれも「イエスは主です」と言うことはできません。パウロは、コリント教会の人々がまだキリストを信じることなく、偶像礼拝をしていた時代について述べています。まずこのことを考えてみましょう。当時、彼らは偶像礼拝をとおして何らかの指針や目的を受けていたと仮定します。すると、その指針や目的は、多くの偽りの神々から受けたものです。だから、偽りの神々の数だけ、その神々にふさわしいやり方で礼拝をおこなって、指針や目的を受ける必要がありました。偶像の背後には、悪魔や悪霊が存在しています。パウロはコリント人への手紙第一の最初の方で、このことを指摘していました。コリント人への手紙第一 10 章 20 節ではこう言います。²⁰ むしろ、彼らが献げる物は、神にではなくて悪霊に献げられている、と言っているのです。私は、あなたがたに悪霊と交わる者になってもらいたくありません。今、彼らはコリント教会の信徒としてキリストを知っています。彼らに人生に指針や目的を与えてくださるお方は、ただお 1 人、聖霊のみ、なのです。まずこのことを、パウロは手紙の読み手に確認させます。その上で、3 節の文章を記しているのです。³ ですから、あなたがたに次のことを教えておきます。神の御霊によって語る者はだれも「イエスは、のろわれよ」と言うことはなく、また、聖霊によるのでなければ、だれも「イエスは主です」と言うことはできません。

1 節から 3 節についての詳細は割愛します。先週、説教の中で詳しくお話したからです。霊的な賜物は一つの基準で評価されるべきです。これがパウロのポイントです。この基準とは何か。それは「人々をイエス・キリストに導くものであること」です。誰かが霊的な賜物と言われるものを用いたと仮定します。すると、その人が周りの人々にイエス・キリストを指し示すのではなく、その人自身に注意を向けさせることになったとします。その場合、その人は霊的な賜物を誤って用いているか、それとも、その賜物自体が霊的な賜物とは全く違うか、そのどちらかです。パウロは、コリント人への手紙第一の全体をとおしてこの点を指摘しています。女性のかぶり物の問題でもそうでした。今日の霊的な賜物の問題でもそうなのです。礼拝においてキリストを指し示すこと、これがすべてです。ここまで、霊的な賜物についての議論の土台が整えられました。使徒パウロをとおして語られる聖霊は、ここから霊的な賜物の議論に移っていきます。パウロは 12 章から 14 章までの議論全体において「霊的な賜物を正しく用いることは、教会の一致に貢献する」ということを語るのです。4 節から 7 節を読んでみましょう。⁴ さて、賜物はいろいろありますが、与える方は同じ御霊です。⁵ 奉仕はいろいろありますが、仕える相手は同じ主です。⁶ 働きはいろいろありますが、同じ神がすべての人の中で、すべての働きをなさいます。⁷ 皆の益となるために、一人ひとりに御霊の現れが与えられているのです。パウロは、霊的な賜物の種類に関する議論に入ろうとしています。12 章では、霊的な賜物について、二つの異なるリストを示しています。パウロが焦点を当てている事、それは、人々の間で生じる不和を解消することです。それはどういうことかということ、人々はそれぞれ違った賜物を持っているので、自分の賜物が他の誰かの賜物よりも重要であるかのようにふるまってしまい、教会の中で不一致が起こるから、それを解消したい、ということです。だから、パウロは冒頭から「賜物はいろいろありますが、与える方は同じ御霊です」と記して、この点を明確に指摘したいのです。

非常に重要なこと、それは賜物を与える根源です。その根源が、わたしたちの知恵や力や努力だったと仮定します。それはそれで誇らしいことです。その根源が、純粋に遺伝から来るものだったとしたら、わたしたちは自分の家族の歴史に誇りを持ちます。そして、国籍や文化に誇りを持つのです。賜物と言われる能力や技術は、もちろん自分自身の知恵や力や努力によるものではありません。賜物は、その性質上、誰

かから贈られるものです。贈られた側は、贈って下さった側を喜ばせるような使い方をしたいと思うはず
です。親について考えてみましょう。親が子供にクレヨンの箱をプレゼントします。子供がそのクレヨ
ンを使って、両親のために特別に絵を描いてくれたとき、その親はどんな気持ちになるでしょうか。子供が
親からの贈り物であるクレヨンを使って、絵を描いて親を祝福してくれる。これはクレヨンを贈った親を
喜ばせます。霊的な賜物がどこから来るのか、これは重要なのです。このことはとても重要なことな
のです。霊的な賜物がどこから来るのかを知ったならば、これらの賜物を用いる時、わたしたちは自分自身を
誇りとするなどしません。霊的な賜物がどこから来るのかを知ったならば、わたしたちが、これらの
賜物を用いる時、誰が栄誉と栄光を受けるにふさわしいお方がわかります。わたしたちが賜物を用いる
時、栄光を受けるに値する方は、神ご自身なのです。栄光を受けるに値する方は、完全なる三位一体の神
なのです。賜物とは聖霊の働きが現れたものである。このことに注目しましょう。わたしたちの内には、
たった一人の主であり救い主であるイエス・キリストがおられます。そして、わたしたちが生活の中で賜
物を用いる時、その背後には、父なる神による究極の力添えがあるのです。聖霊の賜物であることがハッ
キリと分かるものは、賜物が人に与えられる時、父・御子・御霊それぞれの位格なる神が関与しているの
です。

今日ここに集まっておられる方々の中には、イエス・キリストを信じていない方、イエス・キリストの弟
子でない方が、いらっしやるかもしれません。あなたは、イエス・キリストを知りません。でも自分には
技能や能力があり、それなりに成功している。そう思っているかもしれません。あなたがおっしゃるこ
とは間違っていないです。聖書には、様々な賜物を贈って下さるのは究極的には神であること、わたした
ちは皆、神に似せて作られた被造物であることが、ハッキリと記されているからです。しかし、あなたに
はないものがあります。それは、神ご自身です。あなたには神ご自身がおられないので、聖霊があなたの中
に住んでおられないし、あなたの技能を、その究極の目的、つまりあなたの創造主である神に栄光をもた
らすために使わせていただくこともないのです。実際、あなたの内に聖霊がないので、罪のために、あ
なたと神との関係が壊れたままになっているのです。ヨハネによる福音書3章5節はこういいます。5 イ
エスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。人は、水と御霊によって生まれなけれ
ば、神の国に入ることはできません。」わたしたちが聖霊なる神と交わるためには、御子イエス・キリ
ストにおける救いを受け入れるしかありません。イエス・キリストは、わたしたちの罪に対する罰を、自ら
身代わりに引き受けて、十字架上で死んでいかれました。わたしたちが、神に対する罪を悔い改めて、イ
エス・キリストを罪から救われる唯一の道、自分の主、救い主として信じるとします。すると神は、イエ
ス・キリストの義、わたしたちのためにイエス・キリストが犠牲になったことを受け入れて下さるので、
わたしたちを赦して下さるのです。このように、わたしたちがイエス・キリストの救いを受け入れる
時、わたしたちは「聖霊のバプテスマ」を受けます。すると、その時からずっと、聖霊ご自身がわたした
ちを包み込んで下さるのです。聖書はこのように教えています。わたしたちの内には、自分では神からの
賜物とは思っていなかった能力が内在しています。聖霊はこうした能力を強化して下さいます。でも、そ
れだけではないのです。多くの場合、わたしたち自身の中に新たな賜物を育てて下さるのです。

今言ったような賜物とは、一体どのようなものなのでしょう。このことに目を向ける前に、2つのこ
とをハッキリとさせておきます。1つ目は、霊的な賜物を適切に用いるならば、人々をイエス様に導くこ
とです。2つ目は、賜物は神ご自身が贈って下さることです。この2つのことをハッキリさせておきま
しょう。パウロは8節から11節において、霊的な賜物の最初のリストを示しています。8 ある人には御霊を
通して知恵のことばが、ある人には同じ御霊によって知識のことばが与えられています。9 ある人には
同じ御霊によって信仰、ある人には同一の御霊によって癒やしの賜物、10 ある人には奇跡を行う力、あ
る人には預言、ある人には霊を見分ける力、ある人には種々の異言、ある人には異言を解き明かす力が与
えられています。11 同じ一つの御霊がこれらすべてのことをなさるのであり、御霊は、みこころのまま
に、一人ひとりそれぞれに賜物を分け与えて下さるのです。霊的な賜物について理解しようとする
とき、わたしたちはまず、聖書の中にさまざまな賜物が列挙されていることを理解しましょう。これから数
週間にわたって、わたしたちは賜物についての議論を続けていきます。今日は、賜物は1つではなく異
なる賜物がある、ということを中心に留めておきたいと思えます。わたしたちは、賜物というと超自然的な
ものに目が行きがちです。そして、超自然的な聖霊の働きには違いないけれど、もっとありふれたような賜
物を見逃してしまうことがあります。今日の聖書箇所では、9つの賜物が挙げられています。知恵のこと
ば、知識のことば、信仰、癒し、奇跡の働き、預言、霊の見分け、異言、異言の解釈。

それぞれの賜物について、その意味を明確に説明することは容易ではありません。また、その意味についても、この分野の有識者やクリスチャンの間で意見が分かれるのです。Utterance は、ことばやメッセージと訳すことができます。知恵のことばとは何か。誰かの目を、キリストのように他者のために自己を犠牲とすることに向けさせて、その人をキリストへと導いていく賜物のようです。知識のことばとは何か。聖霊の靈感によって、聖書を神学的見識に基づいて宣べ伝えること、と理解するのが一番良さそうです。知識のことばに関しては、現代的な見解があります。つまり、聖霊が、特定の人の状況や霊的な必要を洞察して、超自然的に解き明かしてくれるものだ、というのです。聖霊が超自然的に導いてくれることについては、多くの人がさまざまな時にこれを経験しています。わたし自身も似たような経験をしたことがあります。ただ、わたしとしては、そのことが聖書の中で語られている知識のことばだ、と納得している訳ではありません。でも、知識のことばなのかもしれません。信仰の賜物とは、わたしたちの誰もが救われるために与えられている神の力に対する並々ならぬ確信です。癒しはその言葉どおりのものです。神は、ある人を奇跡的な身体の癒し手として用いられます。奇跡の働きもその言葉どおりです。しかし、身体健康というよりも、神の力を顕現するようなものです。預言という賜物も様々な意見が分かれるものです。特定のニーズを持つ人に対応するために神がその人に与えたメッセージ、と理解するのが最も良いようです。説教をするたびに、わたしはこのようなメッセージとなるように祈るものですが、この預言の賜物とは、説教だけにとどまらないものです。霊を見分けることは、預言の賜物と関係があります。預言的メッセージが語られる時、このメッセージに神の権威があり、これは真実なのかを評価する特別な能力であると思われまふ。つまり、これは本当に神からの言葉なのか、それとも単なる人間の思いなのか、ということを見分けることです。異言の賜物と異言の解釈も一緒になっています。異言の賜物は、聖書では2通りの表現があります。一つは、自分が話せない言語で話す、あるいは理解されること。そしてもうひとつは、未知の言語で神に語りかけることです。もし、わたしたちが未知の異言で神に語りかけているのなら、それを通訳する人がいなければなりません。これらの最後の賜物である預言と異言については、14章で詳しく述べまふ。

先ほども言いましたが、以上は賜物のリストの1つでしかありません。この同じ章の後半、28節には、こう記されています。28 神は教会の中に、第一に使徒たち、第二に預言者たち、第三に教師たち、そして力あるわざ、そして癒やしの賜物、援助、管理、種々の異言を備えてくださいました。ローマ人への手紙12章6節を読んでみます。6 私たちは、与えられた恵みにしたがって、異なる賜物を持っているので、それが預言であれば、その信仰に応じて預言し、7 奉仕であれば奉仕し、教える人であれば教え、8 勧めをする人であれば勧め、分け与える人は惜しまずに分け与え、指導する人は熱心に指導し、慈善を行う人は喜んでそれを行いなさい。エペソ人への手紙4章を見ると、コリント人への手紙第一12章28節と同じようなことが記されています。エペソ人への手紙4章11節「¹¹ こうして、キリストご自身が、ある人たちを使徒、ある人たちを預言者、ある人たちを伝道者、ある人たちを牧師また教師としてお立てになりました。」使徒ペテロも、ペテロの手紙第一4章8節から11節の中で、リストを示しています。「8 何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は多くの罪をおおうからです。9 不平を言わないで、互いにもてなし合いなさい。10 それぞれが賜物を受けているのですから、神の様々な恵みの良い管理者として、その賜物を用いて互いに仕え合いなさい。11 語るのであれば、神のことばにふさわしく語り、奉仕するのであれば、神が備えてくださる力によって、ふさわしく奉仕しなさい。すべてにおいて、イエス・キリストを通して神があがめられるためです。この方に栄光と力が世々限りなくありますように。アーメン。」以前、コリント人への手紙第一7章で、パウロは独身を賜物と呼んでいる事を見ました。コリント人への手紙第一7章7節から8節「7 私が願うのは、すべての人が私のように独身であることです。しかし、一人ひとり神から与えられた自分の賜物があるので、人それぞれの生き方があります。8 結婚していない人とやもめに言います。私のようにしていただけるなら、それが良いのです。」パウロは、自発的に貧困に甘んじたり、殉教することも霊的な賜物に含めていたようです。愛という霊的な贈り物についての考察では、コリント人への手紙第一13章3節にこう記されています。「³ たとえ私が持っている物のすべてを分け与えても、たとえ私のからだを引き渡して誇ることになっても、愛がなければ、何の役にも立ちません。」最後に、エペソ人への手紙3章には、福音のために異文化圏を旅すること、一般的に宣教師と呼ばれることは霊的な賜物であると記されています。このことは、エペソ人への手紙3章6節から8節「⁶ それは、福音により、キリスト・イエスにあって、異邦人も共同の相続人になり、ともに同じからだに連なって、ともに約束にあずかる者になるということです。⁷ 私は、神の力の働きによって私に与えられた神の恵みの賜物により、この福音に仕える者になりました。⁸ すべての聖徒たちのうちで最も小さな私に、この恵みが与えられたのは、キリストの測り知れない富を福音として異邦人に宣べ伝えるためであり、」これだけいろいろな賜物が列挙されています。これは一体どういうことなのでしょう

か？それは、賜物について、ひとつの明確な事実を示しています。賜物にはさまざまなものがある、ということです。賜物とは、類型化したリストを見て、わたしたちがこんな賜物を自分自身の中に見出そう、あんな賜物を追求しよう、というような類いのものではないのです。また、これらのリストは包括的なものではないことを意味します。例えば、音楽はここに挙げられていませんが、音楽の技能は神があなたに与えてくれた確かな賜物だと言えるでしょう。聖書に書かれている霊的な賜物が何であるかを知ることが重要ではなく、特定のリストにあるかどうかにかかわらず、あなたには確かに霊的な賜物があることを認識すること、このことがもっと重要です。

では、教会における霊的な賜物の見方、そして、その賜物の使い方にどのような意味があるのでしょうか。それを整理してみましょう。今日の聖書箇所から、あなたがどんな能力を持っていても、クリスチャンであれば、その能力を神からの賜物として教会のために使うようにしなさい。神はこう言われるのです。これが、7節で言っている重要なポイントです。「7 皆の益となるために、一人ひとりに御霊の現れが与えられているのです。」これらの賜物は、わたしたち自身の楽しみのためだけに与えられるものではありません。つまり、教会やわたしたちが暮らす社会で、仕事に用いて昇進するため、あるいは、他人に自分の能力を誇示するため、だけではないのです。わたしたちがこれらの賜物を頂く理由は、私たちが属する共同体のためになるから、なのです。YIBCのメンバーであれば、ここがあなたの共同体です。わたしたちは、あなたの家族であり、キリストにある兄弟姉妹です。わたしたち共同体は、神から頂いた賜物を、キリストの体全体の益となるために用いるのです。わたしたちは、個人や特定の賜物に焦点を当ててしまいがちです。神はむしろ、キリストの体全体に焦点を当てているのです。神の関心は、キリストの体全体にあるのであって、特定の人や特定の賜物にはありません。14章でわかることは、異言を話す人たちが、他のすべての賜物よりも注目されているように見えた、ということです。現在でも一部の教会では、このようなことが続いているようです。14章まで、パウロは異言の賜物を賜物のリストの最後に置いています。賜物の派手さや奇跡的側面ではなく、キリストの体としての「共通の利益」のために、すべての信徒が自分に与えられた役割を果たすこと。彼は、ここに焦点を合わせています。あなたに賜物がある理由は、それを使うためなのです。あなたはご自分に与えられた賜物を使っていますか？あなたの賜物をキリストの体のために使っているのでしょうか？ 祈りましょう。

1 Corinthians 12:1-11 The Reason for Spiritual Gifts

Last week we began our journey through the next three chapters of First Corinthians, 12-14, dealing with spiritual gifts. Now I want to start with chapter 12 and begin working our way through these verses as we discover the way that God blesses the church by giving spiritual gifts to his children. Today as we look at the first 11 verses of 1 Corinthians 12, we will see the **Reason for Spiritual Gifts**. Remember that each of these arguments will build on the others, so this reason for spiritual gifts will really set the stage for the rest of the discussion about these gifts.

Let's begin by reading verses 1-3. **Now concerning spiritual gifts, brothers, I do not want you to be uninformed. 2 You know that when you were pagans you were led astray to mute idols, however you were led.** Before we read on, we should note that he is talking about their previous life before Christ when they worshipped idols. If they received any direction or purpose from that worship in any way, it was based on many different false gods who each had to be approached in a different way. And as he pointed out earlier in this book, demons or evil spirits were behind anything that came from those idols. **1 Corinthians 10:20 No, I imply that what pagans sacrifice they offer to demons and not to God. I do not want you to be participants with demons.** But now that they know Christ, there is a single Holy Spirit who guides their lives and gives them purpose. That is how this connects to what he says in verse 3. **3 Therefore I want you to understand that no one speaking in the Spirit of God ever says "Jesus is accursed!" and no one can say "Jesus is Lord" except in the Holy Spirit.**

I talked about this in more detail last week so I won't spend a lot of time on these first three verses. The main point that Paul starts with is that the validity of every spiritual gift should be evaluated on one criteria – it points people to Jesus Christ. If you see the exercise of something that claims to be a spiritual gift, but it does more to draw attention to a person than point to Jesus Christ, then it would be either a misuse of a spiritual gift or not a true spiritual gift at all. This has been Paul's point throughout this book. We even saw it with the issue of head-coverings on women, and we now see it with spiritual gifts. Everything points to Christ in worship. So with that setting the stage for his discussion of spiritual gifts, the Holy Spirit speaking through the apostle Paul now turns to the discussion of spiritual gifts and pointing us to his main point in this entire 3 chapter discussion, that properly using spiritual gifts contributes to the unity of the church. Let's read verses 4-7. **4 Now there are varieties of gifts, but the same Spirit; 5 and there are varieties of service, but the same Lord; 6 and there are varieties of activities, but it is the same God who empowers them all in everyone. 7 To each is given the manifestation of the Spirit for the common good.** Paul is going to go into a discussion involving the differences between gifts. In this chapter he is actually going to give two different lists of spiritual gifts. Much of his focus is on resolving the disunity that in some ways is natural between those with different gifts as each person thinks and even acts in a way to say that their gift is more important than someone else's gift. So right away, he wants to make the very clear point **that there are many gifts, but they are all from the same source.**

The source of gifts is extremely important. If the gifts were of our own doing, then that gives us reason for pride. If the gifts came from pure genetics, then we could take pride in our family history and to the extent of where we come from, our nationality or culture. Of course, due to the nature of these abilities and skills being a gift, they are not of our

own doing. A gift by its very nature comes from someone else. And the receiver of the gift should want to please the giver of the gift with how it is used. **Think about a parent. A parent gives a child a pack of crayons as a gift. How does it make that parent feel when the child uses those crayons to draw a special picture for their parents? It pleases the parent as the giver of the gift to see the child use that gift to bless the parent with a picture.** So is it important where these gifts come from? It is very important. It shows that we have no reason for pride in the use of these gifts. And it also shows the person who deserves to be honored and glorified in the use of our gifts. That person who deserves to get the glory in the exercise of our gifts is God himself. And it is the full Trinitarian God that deserves to be glorified through our gifts. Notice that the gifts are a manifestation of the Holy Spirit. That we all have only one Lord and Savior Jesus Christ. And that it is God the Father's ultimate empowering behind the gifts that we exercise in our lives. So, in every way, though these are clearly gifts of the Holy Spirit, all three persons of the Trinity are involved in the giving of these gifts.

You may be here today and are not a believer, a follower of Jesus Christ. You may be thinking, well I have skills and abilities and am successful in various ways without knowing Jesus Christ. And that is likely true since the Bible is clear that God is the ultimate giver of these gifts, and we are all created beings who are made in his image. But what you do not have is God himself, the Holy Spirit, living in you and causing those skills to be used to their ultimate end, bringing glory to your Creator, God. In fact without the Holy Spirit, you remain in a broken relationship with God because of sin. **John 3:5 says, Truly, truly, I say to you, unless one is born of water and the Spirit, he cannot enter the kingdom of God.** Our access to God the Holy Spirit is only through Salvation found in God the Son, Jesus Christ. He died on the cross, taking the punishment for our sin on himself. When we repent of our sin against God and accept Jesus Christ as our Lord and Savior, believing in him as the only way to salvation from that sin, then God forgives us based on Jesus Christ's sinless righteousness and his sacrifice for us. When that happens, the Bible tells us we are "baptized in the Spirit" and will always have the Holy Spirit himself indwelling us from then on. The Holy Spirit then not only strengthens the skills we may already have but not recognized as gifts from God, but many times develops within us new gifts that we would never have seen within ourselves.

We have established two things before we get to what these gifts are. **One, the proper use of spiritual gifts should point people to Jesus.** And **two, the giver of the gifts is God himself.** But once those things are established, he gives us the first list of spiritual gifts from verses 8-11. **⁸ For to one is given through the Spirit the utterance of wisdom, and to another the utterance of knowledge according to the same Spirit, ⁹ to another faith by the same Spirit, to another gifts of healing by the one Spirit, ¹⁰ to another the working of miracles, to another prophecy, to another the ability to distinguish between spirits, to another various kinds of tongues, to another the interpretation of tongues. ¹¹ All these are empowered by one and the same Spirit, who apportions to each one individually as he wills.** The first idea we need to understand about these spiritual gifts is that there are many different spiritual gifts listed in the Bible. I want to go through these passages this morning so we have these different gifts in mind as we continue over the next several weeks through this discussion of gifts. It's easy to focus on the really supernatural type of gifts and miss the more normal sounding gifts that God considers still a supernatural manifestation of the Holy Spirit. In this

passage, we see 9 different gifts listed. Utterance of wisdom, utterance of knowledge, faith, healing, working miracles, prophecy, distinguishing between spirits, tongues, and the interpretation of tongues.

Its not easy to always put a clear description of what each of these is and there is disagreement between commentators and Christians in general as to what they mean. **Utterance** could also be translated as words or message. So, the words of wisdom is likely a gift of giving wise guidance to others that points them to Christlike self-sacrifice for others. The words of knowledge seem best to understand as a message based on Spirit inspired theological knowledge of Scripture. I know that there is a modern view that this is insight into a particular person's situation or spiritual need that the Holy Spirit supernaturally leads you to address, and that many claim to experience this at various times. I can also say that while I have had a similar experience myself, I'm not convinced that is what the Word of knowledge is speaking about in the Bible. But, it may be. The gift of faith would be an extraordinary confidence in God's power that goes beyond the gift of faith we all are given for salvation. Healing is as you would expect. God using a person to be channel of miraculous physical healing. Miracles the same, but not related to physical health but some other type of manifestation of God's power. Prophecy is another area for disagreement, but it seems best to understand it as a message given by God to address specific needs of those hearing it. So, in a way this is what we pray is happening every time a sermon is preached, but it does extend beyond just preaching. Distinguishing between spirits is likely connected to that gift and is a special ability to evaluate the authority and truth of a prophetic message. In other words is this really a word from God or simply human thoughts? The gift of tongues and interpreting tongues go together as well. The gift of tongues has two ways it is described in the Bible. One is speaking in languages or being understood in languages you do not speak. And the other is speaking to God in unknown languages. If we are speaking to God in unknown tongues, then there has to be someone to interpret. These last gifts involving Prophecy and tongues will be addressed in greater detail in chapter 14.

As I said before, this is just one list of gifts. Later in this same chapter, verse 28 we read, [28 And God has appointed in the church first apostles, second prophets, third teachers, then miracles, then gifts of healing, helping, administrating, and various kinds of tongues.](#) We go to Romans 12:6 and read, [6 Having gifts that differ according to the grace given to us, let us use them: if prophecy, in proportion to our faith; 7 if service, in our serving; the one who teaches, in his teaching; 8 the one who exhorts, in his exhortation; the one who contributes, in generosity; the one who leads, with zeal; the one who does acts of mercy, with cheerfulness.](#) When we turn to Ephesians 4, we see a similar listing as [1 Corinthians 12:28. Ephesians 4:11 says, 11 And he gave the apostles, the prophets, the evangelists, the shepherds and teachers...](#) The Apostle Peter also gives a list in [1 Peter 4:8-11 8 Above all, keep loving one another earnestly, since love covers a multitude of sins. 9 Show hospitality to one another without grumbling. 10 As each has received a gift, use it to serve one another, as good stewards of God's varied grace: 11 whoever speaks, as one who speaks oracles of God; whoever serves, as one who serves by the strength that God supplies...](#) Earlier in [1 Corinthians 7](#), we saw that Paul called single celibacy a gift. [1 Corinthians 7:7-8 says, 7 I wish that all were as I myself am. But each has his own gift from God, one of one kind and one of another. 8 To the unmarried and the widows I say that it is good for them to remain single, as I](#)

am. It even seems that Paul included voluntary poverty and martyrdom as spiritual gifts. In his discussion of the spiritual gift of love, [1 Corinthians 13:3](#) says, *If I give away all I have, and if I deliver up my body to be burned, but have not love, I gain nothing.* Finally we see in Ephesians 3 that going cross culturally for the sake of the gospel typically what we call being a missionary is a spiritual gift. We see this in [Ephesians 3:6-8](#) *This mystery is that the Gentiles are fellow heirs, members of the same body, and partakers of the promise in Christ Jesus through the gospel. 7 Of this gospel I was made a minister according to the gift of God's grace, which was given me by the working of his power. 8 To me, though I am the very least of all the saints, this grace was given, to preach to the Gentiles the unsearchable riches riches of Christ,* What does it mean to have all these different gifts listed? It shows us one clear fact about gifts. **There are many different gifts.** These gifts don't fit into neat lists that we are supposed to try and seek out where we fit in or see ourselves. It also means that these **lists are not meant to be comprehensive.** For instance, music is not listed here; but I would say that music skill is a definite gift that God has given you. It is less important to be able to figure out what your particular spiritual gift is in the lists given in the Bible, and more important to recognize that you do indeed have spiritual gifts whether you see them in a particular list or not.

So, let's put all this together in what it means for how we view and use spiritual gifts in the church. *Based on this passage, God is telling us that whatever skills you have, if you are a Christian, you should view those as gifts from God given for you to use to benefit the church.* This is the key point he is making in verse 7. ***To each is given the manifestation of the Spirit for the common good.*** These gifts are not given just for our own indulgence. In other words, it's not just to advance ourselves in our jobs or to showcase our abilities to others, whether at church or in the society we live in. The reason we are given these gifts is to benefit the community we are a part of. If you are a member of YIBC, this is your community. We are your family, your brothers and sisters in Christ. We are your community that God has given you gifts to exercise for the benefit of the entire body. So rather than the focus being on the individual and the particular gift as we so often like to make it, God's focus in the use of spiritual gifts is on the whole Body of Christ, and not on a particular person or on a particular gift. What we will see in chapter 14 is that it seemed like those who spoke in tongues were getting more attention on them than all the other gifts. It does seem that in some churches this continues even today. But starting right here where Paul puts the gift of tongues at the end of the list of gifts and continuing through chapter 14, the focus is not on the showy miraculous gifts, but on every member doing their part for the "**common good**" of the body of Christ. So the reason you have a gift is to use it. So let me ask you, Are you using it? And, are you using it to benefit the Body of Christ? Let's pray.